

令和 5 年 11 月 7 日

浜田市議会議長

笹田 卓 様

議員名 肥後 孝俊

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和 5 年 10 月 28 日 (土) 13 : 30 ~ 17 : 25

2. 研修内容 第一部 基調講演
「2元代表制の意義とは？」 江藤 俊昭(大正大学教授)

問題提起

「2元代表制の一翼として議会は機能しているのか？」

林 晴信(兵庫県西脇市議会議長)

前田 隆夫(西日本新聞論説委員)

神吉 信之(ローカルマニフェスト推進ネットワーク九州)

第二部

ワークショップ

「どうする？2元代表制の一翼として、議会在機能するために」

福井 崇郎(福岡県福津市議会議員)

ディスカッション

どうする？2元代表制の一翼として議会在機能するために」

田邊 介三(安芸高田市議会議員) ・ 林 晴信

前田 隆夫 ・ 江藤 俊昭 ・ 神吉 信之



3. 研修先 安芸高田市民文化センター（クリスタルアージョ）
広島県安芸高田市吉田町吉田761

4. 調査経費 7,402円
（経費内訳 受講料6,000円 ガソリン代 1,402円）

5. 調査研究活動の概要

1. 第一部の基調講演・問題提起では、議会改革の必要性と意見書の取り扱い、市民との対話、活動報告の在り方について説明がなされた。

● 議会改革の必要性

議員は、委員会活動の活性化、傍聴しやすい環境づくり、議事録の公開などが課題として挙げられています。閉会中の委員会活動を活発にしたり、傍聴のシステムを改善することが求められています。

● 意見書の取り扱い

意見書を作成するにあたり議論が不十分な場合が多く、内容を精査することの重要性が指摘されました。過去に同内容の意見書を出した場合の扱いも課題になっています。

● 市民との対話

議会活動を市民に知ってもらうことが大切との指摘がありました。議員が積極的に市民と向き合うことが求められています。

● 活動報告の在り方

報告の対象や報告の方法を工夫することで、効果を高められるとの意見が示されました。インターネット配信などの活用が期待されています。

● 安芸高田市での市長と議会の対立について

石丸市長が当選後、Twitter(現 X)上で議会を非難。議会は市長の発言を問題視し、市長は議会を恫喝したと主張。全員協議会で確認の上、市長は受け入れず、市長は議会とのコミュニケーションが取れないとして、一般質問への出席・回答を拒否。

● 議会が市長の提案を次々と拒否

市長が副市長人事や政策提案を議会に提示するが、議会は拒否し続ける。市長は意見聴取を求めるが、議会は応じない。市政は停滞気味となる。

● 議会改革が必要だが議員の意識改革が急務

議会が市民の意見を反映し、政策提言能力を高めるためには改革が必要。しかし、議員の意識改革無くして改革は難しい。議員は市民の声に耳を傾け、議論する姿勢が重要。

● 市民を巻き込み、開かれた議論の場を設けることが重要

議会は市民との対話の機会を設け、市民の声を政策に反映させるべき。公開

の議論の場で、市民も議論に参加できる仕組みが必要。

- 住民の声を反映できない議会は機能していないとの指摘。
- 議会は住民との対話を通じて合意形成を図り、住民の声を反映した議決権を行使すべきだと説かれた。
- 首長と議会の関係もお互いが補完し合う関係が望ましいとの意見。
- 議会内での議論だけでは住民の声は反映しきれない。住民との対話を大切にし、合意形成を図ることが自治の根幹だ。
- 議会は住民との対話を通じて得られた声を、議決に反映させることが議会の使命。

目指すべき今後の行動のまとめ

1. 議会改革のためのサイクルを導入し、計画的に政策立案能力を高める
2. 学校教育と連携し、将来の有権者である子供たちの議会に対する関心を高める
3. SNS等を活用し情報発信を強化するとともに、デマ等への対応ルールを策定する
4. 住民との対話の機会を定期的に設け、住民の声を政策立案に反映させる仕組みを確立する
5. 議事録や審議の動画配信(既の実施しているが、垂れ流しではいけない)などを通じて、議会の透明性と開放性を高める
6. 他の議員との議論を重ね、合意形成を図る努力を惜しまない。
7. 住民の声を反映した政策を実現するため、適切に議決権を行使する。

《所感》

議会は住民との対話を通じてあがってきた声を元に、政策立案し善政に努める必要があると学んだ。そのためにも、政治は住民にとって人ごとでなく自分事として改めて認識していただく必要がある。どのように関心を引き、参加してもらえるか常に考えて行動していかないといけない。